



人と人をつないでいく寺へ

名田島

岩屋山地蔵院

林義正さん 真希さん

さまざまな表情を見せる寺

花巡礼で親しまれ、30種類の桜をはじめ、シャクナゲなど四季折々の花が彩る。名物は、高さ10mの巨大な岩、通称「人名岩」で、くぼんだ部分と影の部分が顔のように見える。鎖がつるされて、上がることができ、頂上から眺める景色は絶景。特に麦秋の夕焼けに映える黄金の麦は圧巻だ。



夕暮れの黄金の稲穂

境内にはいたるところに仏像がある。その数、なんと88体。さまざまな形の仏像を見ながら散策ができる。子どもが住職に参拝したことを伝えたと回せるガチャガチャもあり、遊べる寺として親しまれている。念誦(ねんじゆ)作りや座禅体験、各種イベントも楽しまれている。



人面岩の上から

地域交流の場としての寺

2014年には境内に参拝者のための休憩所「無憂庵(むゆうあん)」を開設した。毎月24日を「お地蔵さんの日」として、この日限りの幻のうどんを提供する。取り組みに共鳴した有志が協力して切り盛りしている。座敷とキッズスペースを備え、親子連れにも優しい。県産の材料にこだわるうどんはもちもち麺にしょうゆとゆずが入った優しい味わい。一番人気は、わかめ、肉、きざみあげなどのぜんぶ載せで、真希さんのお薦めはきざみあげに海藻の一種でねばねばした食感が特徴の“かじめ”トッピングだという。

さまざまな試みの背景にあるのは地域の交流場所として寺を繋いでいきたいという思い。子どもの頃に祖父母に連れられて来たのが寺を訪れるきっかけになったと話す人が多かったことから、昔のお寺のように、もっと身近な存在にしたいと考えた。堅苦しく見られがちな寺のイメージを変えて、地域の人たちともっとつながっていこうとしている。身近な話題から徐々に打ち解け、どんな話題に関しても相談を受けるようになった。



幻のうどん



地藏院外観

積極的に地域へ

実は義正住職は大阪府、真希さんは福岡県出身で共に県外からの移住者。義正さんは高校卒業後、進路を模索していたところ前代住職の祖父の勧めで和歌山県の高野山大学で修行した。「坊主頭にならなければならなかったが、全く後悔はない。素晴らしい学友と自由な楽しい大学生活を送った」と振り返る。

寺を継いだ当初は知り合いもおらず困ったが、バイトに出て知り合いを増やして地域に出ていった。元々、寺で育ったわけではないことから従来の寺の在り方にとらわれず、持ち前の柔軟さで寺を豊かにするさまざまなアイデアを形にしてきた。

真希さんも移住当初こそ方言のニュアンスや田舎独特の慣習など戸惑うことも多かったというが地域行事に積極的に参加し、地域コーディネーターも務め「今ではすっかり地元の人」と笑い、移住を検討する人には「人をもっと頼っていい」と助言する。



始まりの寺

寺では珍しい結婚式にも力を入れる。寺の手伝いをしてくれた子どもが成長して式を挙げたこともある。林住職は「本来、寺は“どう生きるか”を祈願する場所。別れと終わりではなく、人を結び、始まりの場にしていきたい」と話した。



結婚式



所 山口市名田島3483
時 10:00~15:00
情報はInstagramから



Instagram



ウェブサイト